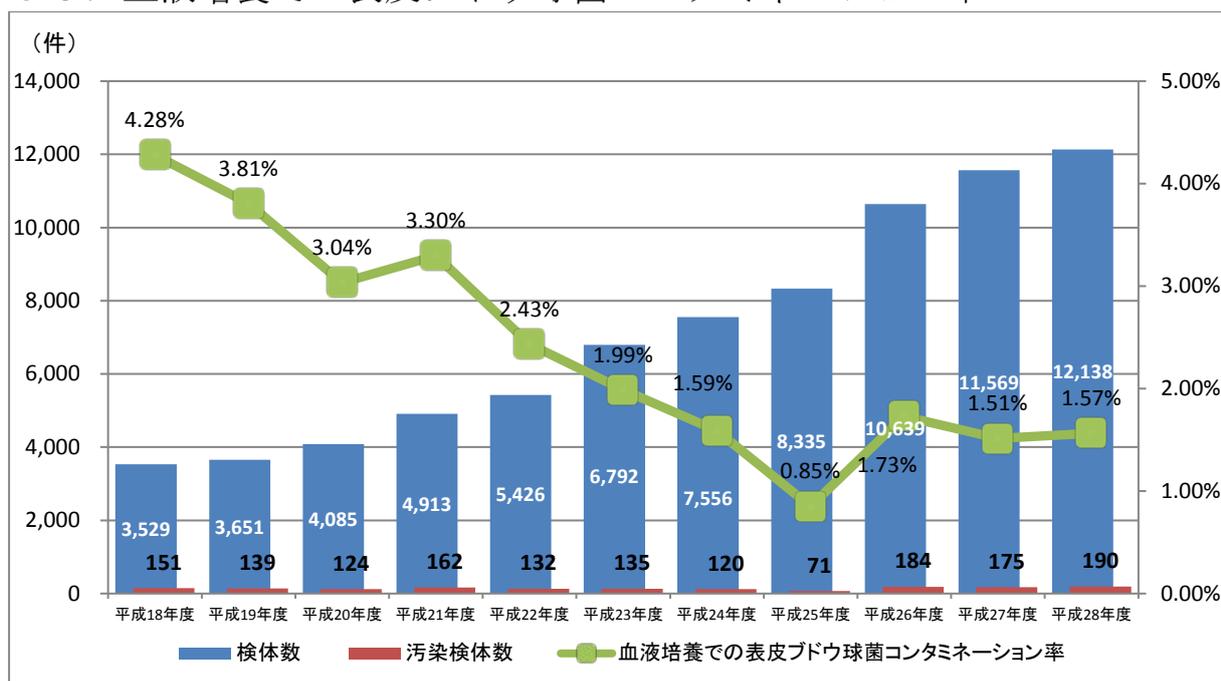


90. 血液培養での表皮ブドウ球菌コンタミネーション率



敗血症(菌血症)の診断、治療、予後において血液培養検査は、原因菌(起炎菌)を特定する重要な検査項目である。血液培養検査の血液採取は、通常の採血手技によって採取されることが多く、厳重な皮膚消毒を怠ると採血時に皮膚に付着する常在菌などを混入させてしまうことがある。それにより、本来の敗血症の原因菌を見誤る可能性がある。

当院におけるコンタミネーション(常在菌などの混入)の割合は、年々減少傾向にあり、全体の2%以下を維持し適切な採取方法が厳守される証と思われる。

血液培養検査の手順書においてもコンタミネーション率は、2%以内が適切であるとされており、これと比較しても現在のコンタミネーション率は低い値であり信頼できる結果を提供できていると考えられる。

データ提供 臨床検査部